『川沿中学校のあゆみ』

行っても行かなくても自由だったから、進学したのは高等科時代の半分くらいになった。 義務教育になったのは1級下のクラスからだった。 高等科の2年になる時、 新制中学ができ、その中学2年に編入した。その時は中学校へ

友だちに取られて自分が食べるのが少しのこともあり、昼食の時間は教室で食べる者は3 米の弁当を持ってきた生徒は、 ~4人という時もあった。 当時は終戦直後で食糧事情が悪く、米のご飯は正月とお祭りしか食べられなかったから、 小麦飯、 えん麦飯、小麦だんご、そばだんご、秋にはトウキビを持って行ったが、 人に見られないように隠して食べていた。麦飯はまだ良い

ょっと触れると破れてしまい、 校舎はボロで窓ガラスを破るとガラスがないから紙や新聞紙をノリで貼った。それでち 掃除の時にはその修繕を良くやったものだ。

へ行って授業をしたから、その日になると帰りも2時間遅れて帰ったものだった。 着る物は継ぎの当たった洋服を着てゲートルを巻き、ボロ靴や下駄ばきの登校で、 教室は不足で、夏の期間は2部授業といって、 学年ごとに1日交代の2時間遅れで学校 戦争

があった。 時代の軍靴と戦闘帽は良い方だった。しかし、学校から時々服やズボンの配給もわずかだ

と思う。 う者はあまりなく、 通学については、 冬は馬そり道だったからスキーで通う者が多かった。夏は自転車で诵 ほとんどの生徒は歩いて通ったから食糧不足の割には丈夫な体だった

運動会の時は、雨上がりのグランド一面の水を見て、すぐ家に帰り、 堤外から土を運んでグランドにまき、馬を帰してから運動会を始めたものだった。 自分で馬車を出し

堤外の麦畑後ろ地の副産物のワサビを掘って何とか工面した。 秋になって修学旅行に行こうという話が出て、みんなで旅費を作ろうということになり、

かった。 列車に乗って行った。 た。当時の汽車は常呂までしか来ていなかったから、 行き先は川湯で、中学2年で学校をやめた友だちの中で旅行に行きたい人も連れて行っ もう秋も深く寒い頃だったが、 朝早く起きて常呂まで歩き、 みんなで旅行できたので非常に嬉し 1番の

*昭和11年10月13-14日 網走・常呂間の湧網東線全通、 開通祝賀会開

川沿尋常小学校初の湧網線乗車の修学旅行

(川湯大東館宿泊)

*昭和22年5月1日 川沿中学校開校